

## 電子添文改訂のお知らせ

2026年5-6月

オキサゾリジノン系合成抗菌剤

処方箋医薬品<sup>注)</sup>

**シベクトロ錠** 200mg

(テジゾリドリン酸エステル錠)

**シベクトロ** 点滴静注用 200mg

(注射用テジゾリドリン酸エステル)

注) 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

このたび、標記製品の電子添文を以下のとおり改訂しましたのでお知らせいたします。

今後のご使用に際しましては最新の電子添文をご参照くださいますようお願い申し上げます。

弊社製品のご使用にあたって、副作用等臨床上好ましくない事象をご経験の際には、弊社MRまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

MSD 株式会社

### 《改訂概要》

改訂項目	改訂内容
10. 相互作用	相互作用の発現機序に関する情報として、 <i>in vitro</i> 試験においてテジゾリドはモノアミン酸化酵素(MAO)の可逆的阻害作用を有する旨を追記しました。
10.2 併用注意	『セロトニン作動薬』を追記しました。

- 今回の改訂内容は医薬品安全対策情報 (DSU) No.346 (2026年7月) に掲載されます。
- 改訂後の電子添文全文は、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) 及び弊社ホームページ (<https://www.msconnect.jp/>) に掲載しております。
- 添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」を用いて、以下のGS1バーコードを読み取ることで、PMDAホームページ上の最新の電子添文等をご覧いただけます。

シベクトロ錠 (MSD)



(01)14987185810385

シベクトロ点滴静注用 (MSD)



(01)14987185810378

# シベクトロ<sup>®</sup>錠200mg

## 《改訂内容》

改訂後			改訂前		
<b>10. 相互作用</b> <i>In vitro</i> 試験において、テジゾリドリン酸エステル及びテジゾリドは乳癌耐性蛋白（BCRP）の阻害作用を有する。テジゾリドリン酸エステルを経口投与したとき、腸管のBCRPを阻害することにより、BCRPの基質である薬剤の血中濃度等に影響を与える可能性がある。また、 <i>in vitro</i> 試験において、テジゾリドはモノアミン酸化酵素（MAO）の可逆的阻害作用を有する。[16.7参照]			<b>10. 相互作用</b> <i>In vitro</i> 試験において、テジゾリドリン酸エステル及びテジゾリドは乳癌耐性蛋白（BCRP）の阻害作用を有する。テジゾリドリン酸エステルを経口投与したとき、腸管のBCRPを阻害することにより、BCRPの基質である薬剤の血中濃度等に影響を与える可能性がある。[16.7参照]		
<b>10.2 併用注意（併用に注意すること）</b>			<b>10.2 併用注意（併用に注意すること）</b>		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
略（変更なし）			略		
BCRPの基質となる薬剤 メトトレキサート ノギテカン塩酸塩等	略（変更なし）	略（変更なし）	BCRPの基質となる薬剤 メトトレキサート ノギテカン塩酸塩等	略	略
セロトニン作動薬 炭酸リチウム セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（SNRI） 選択的セロトニン再取り込み阻害剤（SSRI） トリプタン系薬剤 L-トリプトファン含有製剤 トラマドール塩酸塩 フェンタニル メサドン塩酸塩 ペチジン塩酸塩等	併用投与により、セロトニン症候群が発現したとの報告がある。セロトニン症候群の徴候又は症状（不安、激越、落ち着きのなさ、頻脈、高血圧、高体温症、振戦、筋緊張亢進、筋固縮等）が認められた場合には、本剤とセロトニン作動薬の両方あるいはいずれか一方の投与中止を検討すること。なお、セロトニン作動薬の急激な減量又は投与中止により離脱症状があらわれることがあるので注意すること。	本剤のMAO阻害作用により、セロトニン作動活性を増強するおそれがある。	←追記		

# シベクトロ<sup>®</sup>点滴静注用200mg

## 《改訂内容》

改訂後			改訂前		
<b>10. 相互作用</b> <i>In vitro</i> 試験において、テジゾリドはモノアミン酸化酵素（MAO）の可逆的阻害作用を有する。[16.7参照]			←新設		
<b>10.2 併用注意（併用に注意すること）</b>					
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子			
セロトニン作動薬 炭酸リチウム セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（SNRI） 選択的セロトニン再取り込み阻害剤（SSRI） トリプタン系薬剤 L-トリプトファン含有製剤 トラマドール塩酸塩 フェンタニル メサドン塩酸塩 ペチジン塩酸塩等	併用投与により、セロトニン症候群が発現したとの報告がある。セロトニン症候群の徴候又は症状（不安、激越、落ち着きのなさ、頻脈、高血圧、高体温症、振戦、筋緊張亢進、筋固縮等）が認められた場合には、本剤とセロトニン作動薬の両方あるいはいずれか一方の投与中止を検討すること。なお、セロトニン作動薬の急激な減量又は投与中止により離脱症状があらわれることがあるので注意すること。	本剤のMAO阻害作用により、セロトニン作動活性を増強するおそれがある。			

## 《改訂理由》

### 10. 相互作用、10.2 併用注意

『セロトニン作動薬』との併用投与によりセロトニン症候群を発現した症例報告が集積されたことから追記しました。

テジブリドは、*in vitro*試験においてモノアミン酸化酵素（MAO）の可逆的阻害作用を有することから、本剤のMAO阻害作用により、セロトニン作動活性を増強するおそれがあります。本剤とセロトニン作動薬との併用投与により、セロトニン症候群の徴候又は症状（不安、激越、落ち着きのなさ、頻脈、高血圧、高体温症、振戦、筋緊張亢進、筋固縮等）が認められた場合には、本剤とセロトニン作動薬の両方あるいはいずれか一方の投与中止を検討してください。なお、セロトニン作動薬の急激な減量又は投与中止により離脱症状があらわれることがあるので注意してください。

## MSD 株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12  
ホームページ <https://www.msd.co.jp/>

### 製品情報お問い合わせ先

MSD カスタマーサポートセンター  
医療関係者の方：フリーダイヤル 0120-024-961  
＜受付時間＞9:00～17:30（土日祝日・当社休日を除く）

2026年5月  
改訂連絡番号：26-08